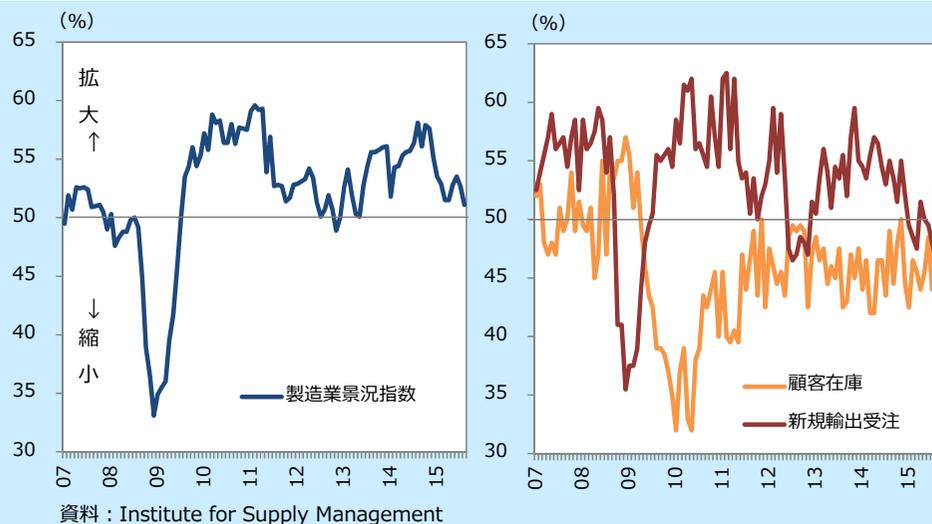


米国：ISM景況指数（2015年8月）

MRI Daily Economic Points
September 4, 2015

図表1 ISM 製造業景況指数



図表2 ISM 非製造業景況指数



評価ポイント

今回の結果

- 15年8月のISM製造業景況指数(米供給管理協会、9月1日公表)は、51.1と2ヶ月連続で低下。拡大と縮小の境目となる50を上回ってはいるものの、13年5月以来の低水準となった。
- 同指数を構成する5指標のうち、4指標が低下。新規受注が51.7と前月(56.5)から大幅に低下。そのほか、生産(53.6)が14年2月以来の低水準となったほか、雇用、在庫も低下した。
- また、同指数構成外の項目ではあるが、ドル高や新興国経済の減速により、新規輸出受注も4ヶ月連続で低下し、12年7月以来の低水準となった。顧客在庫も53.0と前月(44.0)から急上昇しており、09年3月以来の積み上がり状況にある。
- 15年8月のISM非製造業景況指数(米供給管理協会、9月3日公表)は、59.0と前月(60.3)から小幅低下。ただし、高水準は維持しており、06年以降では2番目に高い水準となった。
- 同指数を構成する4指標すべてが低下したが、いずれも高水準。企業活動、新規受注、雇用、入荷遅延のいずれも前月が記録的な高さであったことを勘案すると、依然として好調を維持していると評価できる。

基調判断と今後の流れ

- 製造業の景況感は、ドル高や新興国経済の減速などによる輸出の鈍化が抑制要因となっている。一方、非製造業の景況感は、堅調な国内消費を背景に改善傾向が続いている。
- 先行きは、堅調な内需を受け、非製造業を中心に企業活動は緩やかな拡大が続くとみる。
- リスク要因として、①金融政策の正常化過程での長期金利の急上昇、②ドル高と新興国経済の減速による輸出・企業収益の悪化、③原油安の長期化によるシェール関連企業の活動停滞、などが挙げられる。